

遠隔ビデオ環境における二者間共食コミュニケーションの 分析

Analysis of Dyadic Co-dining Communication in Remote Video-mediated Environment

学籍番号：201121755

氏名：任 海因

Haiyin REN

近年、コンピュータ技術の発展に伴い人間とのコミュニケーションを目的とした人工物が多く提案されてきている。テレビ会議・電話システムを発展させた遠隔共食システムとして応用できる。日常生活においてビデオチャットなどの遠隔コミュニケーションシステムを利用する機会が増えている。日常生活では食事をしながら会話をするのはごく普通であるので、食事をしながらの遠隔会話も増えてくると考えられる。留学生と外国人労働輸出など遠く離れた家族が映像を介して一緒に食事をするシステムは現在の社会状況の課題を解決する一つの方法と期待される。その中で、家族や友人と一緒にではなく、様々な事情で一人寂しい食事をするという状況が本人の意志とは関係なく決定されてしまう「孤食」が問題になっている。

そこで本研究ではシステムが人の食事動作に合わせて食事支援を行ったり、単に見るだけのテレビに代って共食会話を行ったりして、孤食感の軽減に寄与するものである。特に、共食場面において人間の発話、視線、食事行動により決定される。このことから、発話、視線、食事行動の関係があることが推測される。本食事動作は共食場面のコミュニケーションの重要な内容と考えられる。

我々は、本研究は対面共食と遠隔共食場面のコミュニケーションを特徴を比較分析し、とくに遠隔共食と対面共食の発話、視線と食事動作に着目し、共食場面のコミュニケーションを比較分析の支援を目的とする。

この結果を受け、本研究では対面共食と遠隔共食場面のコミュニケーションを特徴を明らかにするために、対面と遠隔共食条件における参加者の発話交替、視線交錯に注目し分析を進めた。次に、対面と遠隔食事動作がどのように違いが見られるかどうかに注目した。参加者の共食場面食事動作のデータから分析した。その結果、対面と遠隔共食条件に食事動作差があるとはいえず、なお、対面と遠隔環境に食事動作の同調に差があることが分かった。

研究指導教員：井上 智雄

副研究指導教員：鈴木 誠一郎